

和装古書のNACSIS-CATへの登録における問題点

筑波大学図書館部 和書データベース係
徳永 智子

はじめに

筑波大学附属図書館で所蔵している和装古書 15 万冊はこれまでカード目録により館内で情報提供されてきた。しかし、これらの中には人文科学及び教育学の分野で有用かつ貴重な本も多く、広く所蔵の情報を公開することで学外の研究者の利用に供するためにも、書誌情報データベース化を考える時期にきていると思われる。

書誌情報データベースに関しては個別にデータベース化することも考えられるが、筑波大学は蔵書の大部分を学術情報センターの総合目録データベース（以下、NACSIS-CAT）に登録して国内外に所蔵情報を提供しているため、これら和装古書に関しても同様な方法でNACSIS-CATを用いることを考えている。

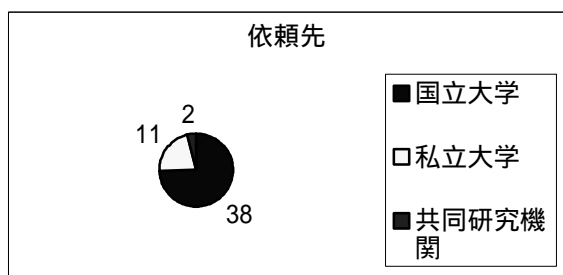
しかし、和装古書と現代の図書は書誌事項の記載等に大きな違いがあり、同様に登録を行うことには様々な問題が生じることが推測される。

そこで、和装古書をデータベース化している、またはしようと考えている機関、あるいは困難さに登録を見合わせている機関の方のお話をうかがい、和装古書のデータベース化の問題点について取り上げたいと考え、調査を行い、まとめてみた。

なお、ここで用いる「和装古書」は主に江戸期以前に発行された和装の古書（漢籍含む）を指している。

調査方法について

アンケート方式とインタビュー方式でおこなった。アンケートをお願いしたのは、大学図書館および共同研究機関51館である。和装古書を所蔵していそうなところという主観で選択し、かつ比較的すぐにFAX番号を調査することができた機関をお願いしたため、精緻な結果ではないと思うが、1週間という短い期限でお願いしたのにも関わらず、39機関から貴重な回答がいただくことができた（回答があったのは大学図書館だけだったので、以下大学図書館とする）。



また、本研修で見学させていただいた国立国会図書館（以下国会図書館）と図書館流通センターの和装古書整理担当の方に個人的にお話を伺う機会も得られた。あわせて学術情報センター目録情報課の方に、NACSIS-CAT に和装古書を入力する場合の現状の可能性について伺うことができた。

各機関の現状

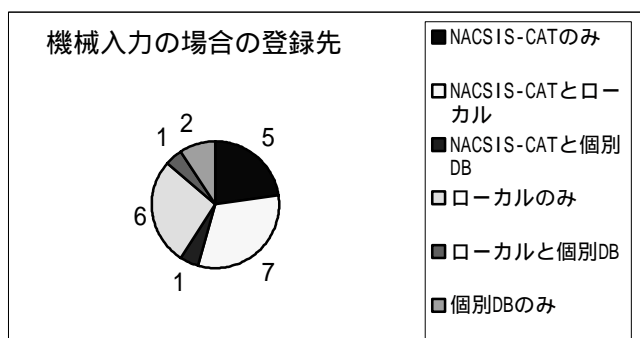
・大学図書館（回答39館）

和装古書を所蔵しているところは35館であった。数については不明とする館も多かったが、1万冊以上所蔵している館だけで12館にのぼった。

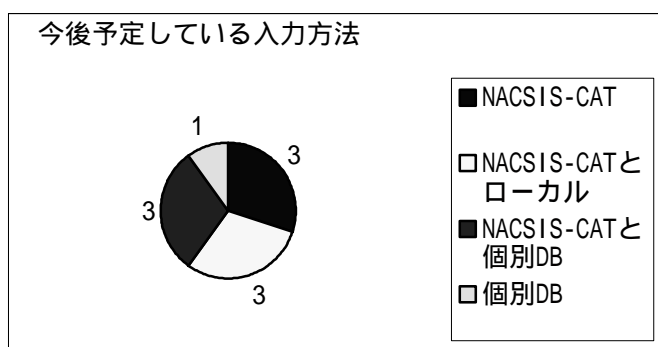
1万冊以上所蔵館	
龍谷大	17万
九州大	16万
東北大	11万
東京大	11万
名古屋大	11万
熊本大	5万以上
仏教大	5万以上
大阪大	3万7千
高知大	3万
金沢大	2万
新潟大	1万3千
愛媛大	1万2千

そのうち、目録を作成している館は34館。目録は冊子体、カード式がまだ大多数だが、一部だけでも機械入力を行っているところは22館にのぼる（うち、2館は全点機械入力）。

更に、NACSIS-CAT に登録しているところはローカルデータ、個別データベースとの併用も含めて13館。ローカルデータも NACSIS-CAT と同じフィールドを用いていることが多いことを考えると、20館が NACSIS-CAT と同様あるいは類似の入力方式をとっていることがわかる（2館は全点個別データベースに入力）。



また、今後機械入力を予定している10館のうち、NACSIS-CAT 利用を含めた入力方法を考えているところは7館にのぼった。



よって、今回、回答をいただいた大学図書館39館のうち、27館がNACSIS-CATへの和装古書の入力方法について関心を払っていることになる。

・国立国会図書館(対応：古典籍課課長補佐 福士氏)

国会図書館では36万冊の和装古書を所蔵しており、1年半-2年半前からデータベース化がはじまった。個別でデータベースを作成するのではなく、現在ある国会図書館データベース上に入力し、他の図書と同様に検索可能としている。

現在は、戦後受入分を対象として、まず冊子体目録を見ながら入力し、後から現物と照合している。現時点で1,300冊入力済。来年度は戦前受入分を入力予定だが、冊子体目録に簡単な情報しか載っていないため、困難が予想される。

・図書館流通センター(対応：営業IV部次長 坂本氏、特殊班データ担当責任者 水落氏)

平成7年度より、8公立図書館の和装古書のデータ入力(一部装備)を担当。1契約は図書現物からの入力が500件程度。カード等からのデータ入力は1,000件以上。

作成方法としてはカードあるいは現物を基にセンターで書名、読み等を調査して、データシートに記入し、入力専門業者に依頼してパンチ入力してもらい、それを MT、フロッピー等の形式で依頼館に納品する。現在、秋田県立図書館の和装古書(8,168 冊)に数年がかりで取り組んでいる。

問題点

大学図書館から寄せられた回答のなかで、和装古書の整理にあたっての問題点を記入していただいた。その結果を大まかにまとめると次の 10 点に整理される。

「目録規則、記述内容」「書名の取扱い」「ヨミの問題」「著者」「出版事項」「書誌同定」「入力できない文字」「画像 DB 化」「職員の体制」「現物の取扱い」

このうち、関連すると思われることをまとめ、6 つの項目とした。枠に入っているものが、大学図書館から寄せられた問題点である。国会図書館、図書館流通センター(以下 TRC)それぞれでとっていらっしゃる対策も紹介したい。

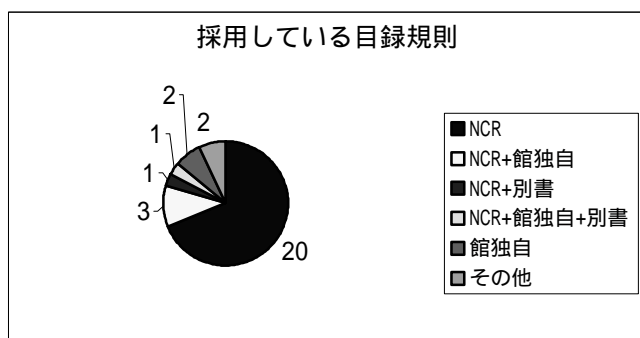
1、 目録規則と記述内容(職員の体制)

和古書には解読が難しいものが多々あり、データ作成の際、記述内容の特定が出来ず、未整理図書として残ってしまう
資料を扱うことに慣れた職員がいない(ある程度熟練した職員の養成、確保が急務)
専門的知識が必要なので、図書館の日常業務の中で整理することは無理(教官の協力で一部整理)
文学部の教官により作成された

このように、和装古書の整理については、専門的知識が必要とされ、通常の図書整理の何倍もの時間がかかる。大きな原因は和装古書用の目録規則がないことであろう。

NACSIS-CATへ登録したいがコーディングマニュアルでは記述がないので登録の際は検討必要
NCRだけでは注釈の部分をどこに記入すべきかわからない
和古書の目録を現代の図書と同様にNCRに基づいて作成するのは無理では？和古書の目録規則が確立されるのがのぞましい

大学図書館で和装古書作成の際の目録規則を回答して下さった 29 館のうち、20 館が NCR を採用しているとのことであった。



しかし、NCR は一部和装古書について記述している部分はあっても、基本的に現代の図書を対象としているため、和装古書の整理には不足な部分が多い。そのため、NCR と館独自の規則を組み合わせで運用している館が 3 館。館独自の規則のみで目録作成している館が 2 館ある。

また、過去の目録関係の著書を基準としているところもある。アンケートに参考図書としてあげられた図書には以下のものがあつた。

和漢古書目録記述法	長沢規矩也	日本書誌学会
国書総目録		岩波書店
近世漢学者伝記著作大事典		井岡書店
江戸の板本	甲野三敏	
書誌学の回廊	林望	
和漢書の印刷とその歴史（長沢規矩也著作集;2）		
貴重書に関する手引き		日本大学図書館 (1986)

国立国会図書館でも NCR1987 年版改訂版を基本規則としている。ただし、旧版に溯れば溯るほど和装古書の目録作成に生かせる基準が出てくるため、1965 年版をはじめ過去の目録基準をその都度参照しているという。

この点、和装古書読解知識ももちろんだが、過去の目録規則に通曉している人が和装古書整理には必要なのではないかというお話であった。

また、国会図書館、TRC 双方とも、規則によりどころがない部分についてはその都度、部内で話し合い、部内基準としているとのことであった。

2、 書名の確定、そのヨミについて

書名の確定（巻首、題籤題、封面、奥付等で適当なタイトルが見出せない、または異なる場合）(端本の場合)
書名が色々な場所にあり、確定が困難
書名等を判断できないことがある
VTに入れるべき書名が一書誌中に多く存在するため、コーディングマニュアルならびに古書そのものの知識に習熟する必要がある

書名の採用については和装古書では特に頭を悩ませるところである。
NCR 2.0.2.3 (各書誌的事項の情報源) に和古書、漢籍の書名優先順位は

- (1) 巻頭
- (2) 目首、自序、巻末
- (3) 外題、題簽、見返し、扉、版心、小口書

となっている。書名として採用する順位は NCR に従うとしても、和装古書は各所の記載が異なっている場合が多いため、どこまでを別書名としてとるかは難しい。

「題簽」については、国会図書館、TRC はともにたとえ後から付与されたものであるにせよ、利用者が現物を探るとき最初に目にするものであるから、アクセスポイントとして重要だとみなしている。検索項目が豊かであればあるだけ利用者にとっては便利だが、ヨミ等の調査にかかる時間を考えると全て入力することは難しく、調査対象の制限を設けることが必要になってくると思われる。なお NACSIS-CAT の VT フィールドの制限は 16 個である。

また、同じ内容の図書が別書名となっていることが多い和装古書については、統一書名典拠を活用することが登録にも検索にも便利であると思われる。

国会図書館では「典拠」という形では持っていないが、「国書総目録」の見出しとなっているゴシック文字の部分を「別書名」とは別フィールドで特別な検索対象として入力している。利用者が和装古書を調査する際にまず「国書総目録」を参照することが多いからである。

草書など判読困難な場合があり、教官の助けを求めた
特殊な読み<読みならわし>と一般の読みの採用
中国語の読み、分かちの基準の未確定・不統一

ヨミの調査についても各館頭を悩ませるところである。大学図書館では教官に聞くことが多いようである。国会図書館、TRC では基準図書を決めている。

国会図書館は「国書総目録」である。前述のように「国書総目録」が和装古書の基本参照ツールであるという認識である。

TRC は「日本古典文学大辞典」(岩波書店)、「中国学芸大事典」(大修館書店)を基本資料として用いることを図書館との契約の際に仕様書に明記している。

中国語のワカチについては現在 NACSIS-CAT で検討している「中国語資料の取扱いの基準」の中で新たに規則を作成することが考えられている。なお、TRC では、意味のきれるところでワカチを行っているとのことである。

3、 著者典拠

著者の読みの確定（本名と多種の号、筆名の調査、決定）
著者名の一本化が難しい（号など）

江戸時代の著者は特に様々な別名を持って著述をおこなっている。
NACSIS-CAT においては著者名典拠ファイルで、別名からも検索可能となっているのでこれを大いに活用したいところである。

国会図書館、TRC においても同様の著者名典拠ファイルを持っているが、リンクはしていないそうである。主に著者名の統一形、ヨミの調査の参照に用いている。

国会図書館では「書名著者」としては図書に記述された形をとっているが、検索対象である「著者書標」では統一形で入力している。つまり図書に記述された形からは検索できない状態であり、やや問題を感じていらっしやるようである。

NACSIS-CAT でも、各著者の典拠データに別名を追加することで典拠を豊かにすることが、目録作成における負担を大きく軽減する重要な問題だと思われる。しかし、その調査はかなり大変なものだと想像される。

Web 上で公開されている国文学研究資料館のデータベースを参考にする等ツールの使いこなしが有効である。

4、 書誌同定（出版事項）

出版事項の確定（出版者、年、地のない資料）
出版事項の確定（刷りの違い、系統の確定）
出版者、出版年、版がなかなかわかりにくい
PUBに取り上げる版元、蔵版者、発売だけの発行書林との判別

書誌の同定が難しい
表面的な目録記述は同様にみえても現物比較すると異版である場合があるため、書誌記述が少しでも異なっていれば、それに修正を加えるのではなく、書誌を新しく作るべき

和古書に関しては、江戸前中期刊行のものは特に、出版事項ほか目録記述事項が全く同一でも、現物を比べると異なっている場合が多い。江戸後期になると出版事情もだいぶ整っているため、そのような心配はなくなるが、しかし同一の本であるとみなすことに危険性はある。

国会図書館も和装古書は全て別のものとして扱っている。特に国会では来歴を示す上で重要な印記を目録上に記入しているために、同一のものはありえないのである。

一書誌に一所蔵ということが NACSIS-CAT のような書誌共有のデータベースにおいて許されるのかが問題である。AACR2 では 2.12-2.18「初期刊本」として、1821

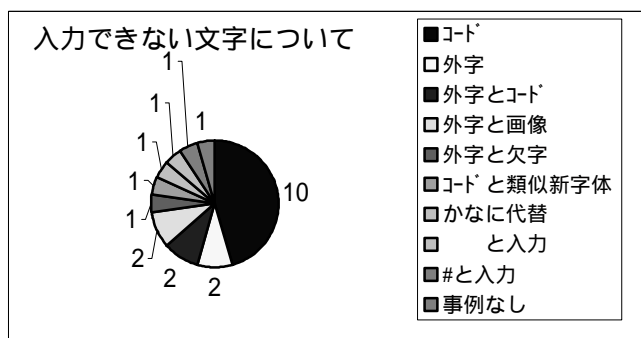
年以前に出された図書他について特別規則を定めているが、特に 2-18「注記エリア」において、インキュナブラについては常に「先行するエリアの定型的記述で目録対象の版または刷(issue)を明確に識別できない場合は、あいまいさのない識別に必要なあらゆる注記を行う」と定めている。つまり稀覯本については特に、精密な目録記述により、似た本を誤って同一のものと認識することを防止しようとしているのである。

和装古書に関しては個別に目録をとるという共通認識まではなかなか至らないところではあろうが、書誌記述がわずかしき違わないからといって、その部分を修正して所蔵をつけるようなことは厳につつまなくてはならないところである。

出版事項の記述に関しても、書誌同定に誤りが起こらない記述をこころがけるようにする必要がある。

5、 入力できない文字について

大学図書館で機械入力している 22 館のうち、入力できない文字の入力方法としてはコード入力が 10 館で最も多い。その他は以下の図のようになっている。



国会図書館、TRC はともに#（井型）を用いている。国会図書館では入力できない文字に関してはカードを作り、漢字、ヨミ、大漢和辞典のコードを記入して、入力可能となる時のツールとして準備している。

NACSIS-CAT では、2000 年以降の予定として、X0221 という JIS 規格を採用し、中国、台湾、韓国の漢字入力を可能とするサーバを準備中である。これが導入され、クライアント側の環境が整えば、現在の約 6,000 字から一挙 20,900 字の漢字が入力可能になる。現在、外字コードとして採用されている大漢和辞典と広漢和辞典についてはコードから漢字への一括変換は行えない恐れがあるが、UCS コードは変換できる可能性が高い。

いずれにしても、漢字の入力については、機械の環境が整えば、かなり改善される可能性がある。

また、異体字、俗字、略字についても判断がわかれるところであるが、国会図書館では、常用漢字を使用し、これらの文字は正字に直すことにしている。

TRC では、旧字は全て新字におきかえ（旧字しか JIS にはない場合は旧字を採用）、異体字は JIS にあれば異体字を採用している。

6、 画像データベース化

目録作成よりは画像をスキャンして、全文を web 上で閲覧できるという方向にいくのではないか。しかし、標準的な方法が決まっていないため、各館バラバラに行っているのが現状。NACSIS-CAT の書誌に URL のフィールドを作って、全文画像をリンクするようにできると全国的にまとまったコレクションができるのではないか。

現実に、東大、神戸大等では画像による和装古書のデータベース作りが行われ、あるいは予定されている。国会図書館でも貴重書、錦絵等がフォト CD 化され、まず館内での公開が予定されている。TRC でも最近、CD-ROM による貴重書の画像データベース化の企画を考え、公立図書館に案内しているところだという。

和装古書が画像によって提供されるようになれば、今まで述べてきた文字の入力方法や、書名ほかの記述事項に頭を悩ませる必要は根本からなくなる。画像で現物を確認できるようになるわけであるから。しかし、まだ全てを画像入力するには予算も膨大であり、方法も確立されていない。これからも当面は目録が必要であることに間違いはないが、今後の一つの方向として画像データベースの存在は常に念頭においておく必要があると思われる。

おわりに

今回、各大学図書館、国会図書館、TRC そして NACSIS それぞれの和装古書のデータベース化状況をうかがわせていただいたのだが、どの機関も同じような部分で悩みつつ、データ作成に取り組んでいるようであった。国会図書館のように古典籍専門の課が存在しても、入力の都度生ずる様々な問題に頭を悩ませており、なかなか多量の冊数を処理することが困難のようである。そのため、調査に時間をかけるよりは一刻も早く全件の検索ができるように必要最小限のデータ入力をまず行い、あとから徐々にデータを豊かにしていくような方針に転換することが考えられているという。

15 万冊という大量の和装古書を所蔵する筑波大学には人事ではない話である。

そして、どの機関も和装古書を入力する上での拠り所を求めている。

NACSIS-CAT への和装古書の入力も今後増加する一方であると思われる。和装古書入力の際の基準が今後決められていくのかはわからない。しかし、現時点での問題点がこのレポートにより少しでも明確にできたとしたら幸いである。

最後になったが、お忙しいところ、アンケートあるいは質問にお答え頂いた各機関の方、そして調査の際いろいろなわがままをきいて下さった NACSIS の方に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

平成10年 9月29日

各館目録業務担当者 各位

筑波大学図書館部
徳永 智子

和装古書の目録作成方法について（質問）

前略

いつも大変お世話になりまして、ありがとうございます。

このたび、筑波大学では所蔵しております和装古書をデータベース化することが計画され、その際、どのような方法で入力したらよいか現在検討中です。

また、私個人は現在文部省学術情報センターの「総合目録データベース実務研修」に参加させていただいております。その研修課題として、自館で問題となっている「和装古書のNACSIS-CATへの登録」を取り上げようと考えております。

そこで、貴館の和装古書（和漢書古書）の目録作成方法につきまして参考にさせていただきたいと思い、別紙のアンケート用紙を作りました。日々の業務でお忙しいところ誠に恐縮ですが、担当者の方御自身のお考えで結構ですのでどうかご協力お願いいたします。

また、誠に勝手ながら、10月2日（金）までに学術情報センター宛にFAX（番号：03-5395-7477）で御返送いただけますと大変助かります。

緊急で申し訳ありません。どうかよろしくお願いいたします。

草々

（連絡先）

10月9日迄 学術情報センター 研修課
（電話：03-3942-6935 FAX:03-5395-7477）

10月12日以降 筑波大学図書館部 和書データベース係
（電話：0298-53-2354 FAX:0298-53-6311）
e-mail:toku@tulips.tsukuba.ac.jp（研修中も使えます）

学術情報センター

総合目録データベース実務研修受講生

筑波大学 徳永 智子 行

(FAX: 03-5395-7477)

貴館名:

ご担当者名:

TEL:

FAX:

e-mail:

和装古書の取り扱いについて (回答)

*** 該当する回答の にチェックしてください。**

*注: 下記記載の「和装古書」という単語は江戸期以前に刊行された和装の和漢書を想定して用いておりますが、貴館において別の定義で取り扱いをわけていらっしゃる場合はその資料についてお答えください。その場合、参考にさせていただきたいので、最後の欄にその定義について簡単にご説明いただければ有り難いです。

1、貴館では、和装古書を所蔵されていらっしゃいますか。

所蔵されている場合はその冊数をお教えてください (概数で結構です)。

有 (冊) 2へ

無 12へ

2、1で所蔵されていると答えていただいた方へお伺いします。

目録を作成されていらっしゃいますでしょうか。

全部作成済 3へ

一部作成済 (割合あるいは概数:) 3へ

作成なし 8へ

3、目録を作成されたのはいつ頃ですか。

()

4、目録の形態についてお教えてください(複数の場合は簡単な割合をお書き添え下さい)。

機械入力 ()	5へ
冊子体 ()	8へ
カード式 ()	8へ
その他	8へ
())

5、機械入力されている方へお伺いします。どのような作成方法をとって作られていますか(複数の場合は簡単な割合をお書き添え下さい)。

・他の図書と同じデータベース上に作成(OPACに反映)	7へ
NACSIS-CATへ登録 ()	
館のローカルデータとして登録 ()	
・他の図書とは別に作成	
個別のデータベースを形成 ()	6へ
その他 ()	7へ
())

6、個別のデータベースを作成されている方へ
そのデータベースの利用者の範囲はどの程度ですか。 7へ

利用制限はない(誰でもアクセス可能)	
自館利用者・他館からの申請者	
自館利用者に限る	
図書館職員の業務のみに利用	
その他	
())

7、機械による目録をとられている方にお伺いします。入力できない漢字はどのようにされていますか。 8へ

外字による入力	
コードによる入力	
その他	
())

8、目録を作成していない方、あるいは目録を機械入力されていない方にお聞きします。
今後、機械による目録作成をお考えでしょうか。

考えている 9へ

考えていない (目録を作成していらっしゃる方は10へ、作成していらっしゃらない方は12へ)

その他

()

9、機械による目録作成を考えていらっしゃる方にお聞きします。
作成される場合はどのような方法をお考えでしょうか。 12へ

・他の図書と同じデータベース上に作成 (OPAC に反映)

NACSIS-CAT へ登録

館のローカルデータとして登録

・他の図書とは別に作成

個別のデータベースを形成

その他

()

10、和装古書の目録を作成する際の採用規則は何を用いていらっしゃいますか。
11へ

NCR (日本目録規則)

館独自の規則

その他

()

1 1、 目録作成の際に問題となったことがありましたらお教えてください。
(書名のとりかた、外字等)

1 2、 その他、何かお気づきのことがあったらお教えてください。

お忙しいところ、ご協力どうもありがとうございました。